【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	鴨川市立東条小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	
児童数	５０	６３	６３	６９	６０	４９	５	３５９	２２

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自ら考え、自ら学ぶ子の育成
～考えを持ち、ともに学び合い高め合いながら
わかる喜びを実感できる算数授業の創造をとおして～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

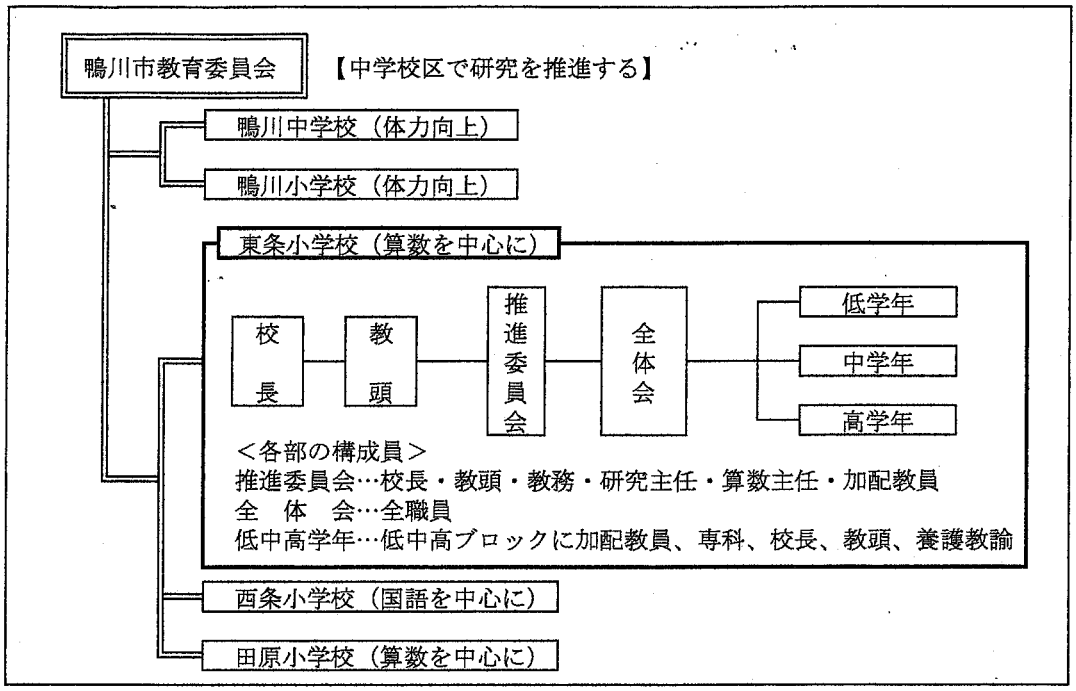
実施学年	全学年（１年～６年）
実施主教科	算数科
選択理由	平成１２年度より算数科における研修を積んできた。その研究を踏まえ、課題をさらに追究していくとともに、学校経営構想に位置付けながら他教科へも広げていく。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 確かな学力の育成に向け、基礎的・基本的事項を明確にした問題解決的学習の指導方法の在り方と、教材の特性や児童の実態に応じた効果的な指導体制の在り方を、算数の授業をとおして明らかにする。 ○　研究の見通し（仮説） 自分なりの追求を促すための場や支援の工夫をした学習を行えば既習内容を基に主体的に考え、主体的に学ぼうとする力が育ち、学力は向上するだろう。 ○　研究の内容・方法 ①教材の特性や児童の実態に応じた効果的な指導体制を明らかにする。 ②本単元を支える基礎的・基本的事項と、本単元で身に付けさせたい基礎的・基本的事項を明確にし、既習事項を生かしていこうとする問題解決的学習方法の在り方を明らかにする。 このことについて、理論研究及び授業実践等で検証する。

平成16年度	○　テーマ 確かな学力の育成に向け、基礎的・基本的事項を明確にした問題解決的学習の指導方法の在り方と、教材の特性や児童の実態に応じた効果的な指導体制の在り方を、算数の授業をとおして明らかにする。 ○　研究の見通し（仮説） 自分なりの追求を促すための場や支援の工夫をした学習を行えば既習内容を基に主体的に考え、主体的に学ぼうとする力が育ち、学力は向上するだろう。 ○　研究の内容・方法 １５年度の実践を基に、さらに仮説を検証していく。また、公開研究会を開催し、研究内容の評価とまとめをしていく。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）次の３点を中核とした問題解決的な指導方法の工夫改善により、児童の学習意欲を高め、学力を高めることができた。

①育てる力を明確に捉える。
・児童の実態把握及び、単元を支える基礎的・基本的事項、身に付けさせたい基礎的・基本的事項を指導案上に示すことにより、育てる力を明確にする。

②指導の方略、手立てを生み出す。
・教科の本質を捉えた教材研究をし、指導内容を「わからせる手立てから、考えさせる手立てへ」と変換する。
・既習事項を常に考えさせることにより、自力解決の力をつける。

③心を耕す学習集団づくりをすることで学習の質を高める。
・安心して自分の考えを述べたり、間違いが受け入れられる集団環境をつくるため、コミュニケーション能力の育成や自己評価能力をつける。このことにより、高め合い、磨き合う学習を目指すことが可能となる。

（２）教材の特性や実態に応じた効果的な指導体制の工夫改善により、その良さと課題が明らかになった。そのことが、児童のわかる喜びへとつながり、学力を向上させていくことができた。

一斉指導（複合型）
○学級経営が授業に生きてくる。
○多様な考えが出され、磨き合いが深まる。
○活発な意見交換が可能となる。
○下位の子も上位の子の考えを聞き、気づきも多くなる
▲教師一人の指導観に片寄ることも出てくる。。
▲わからないまま取り残される子が出る可能性が高い。
▲話し合い活動への参加度合いが弱くなる。

少人数指導（複合型）

ＴＴ指導
１学級を複数の指導者で行うか、グループ別による指導を複数で行う。
○立場や役割を明確にすることにより指導の効率化を図ることができる。
○支援を必要とする子にきめ細かな指導を行う等、一人一人への指導ができる。
▲指導分担を計画的に行わないとＴＴ指導の十分な効果が得られない。

グループ
習熟度別指導
学習の習熟に応じ１学級を２グループまたは２学級を３グループに分ける。
○個人のペースで学習を進めることができる。
○上位の子は発展学習へ、下位の子は基本の定着を図ることができる。
○知識理解、技能の習熟が図りやすい。
▲上位の子は磨き合いになるが、下位の子は難しい。
▲他のコースの学習の様子が見えにくい。
▲自己評価能力が育っていないと、自分に適したコースを選ぶことが難しい。
▲学習基盤として集団の人間関係づくりが重要となる。

プ別指導	課題別指導	複数のコースを自分で選択してすすめる。 ○興味・関心の高まりから学習意欲がわく。 ○自分の計画に沿った学習が進められる。 ○同じ課題をもった仲間と考えを出し合える。 ▲磨き合いの場面がつくりづらくなる。 ▲自己評価による課題選択に不安がある。
	等質分け指導	生活班等で等質に分けてすすめる。 ○発表できる機会が多くなり自信につながる。 ○一人一人の考えやつまづきへ早く対応ができる。 ○作業や操作を伴う学習への個別対応がしやすい。 ▲考えが偏ったり、磨き合いの場面が少なくなる。 ▲全体での評価が難しい。

２．今後の課題

○１５年度の授業実践を基に、教材の特性や児童の実態に応じた指導体制の組み方や単元における形態の複合的な体制をさらに追究することにより、確かな学力の育成を図っていく。
○指導効果の上がる指導体制を単元の指導計画の中にどう位置付けていくか明確にしていく。
○自ら考える力を育て、磨き合い、練り合いに至る指導の手立てと指導過程の在り方をさらに追究することにより、わかる喜びの実感できる授業を構築していく。
○自己評価能力をつけることにより、自分にあった学び方を選択できる児童を育てていく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○単元実施前と単元終了後に実施するテストによる分析。
○学力テストの実施と分析。（２月末実施予定）
※知識・技能・理解の素点だけでなく、考え方や表現・思考の状況を捉える。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○中学校区における参観授業の実施
※１５年度は校内研究授業に相互参観
○鴨川市内各小学校への実践報告会
○公開研究会を予定
日時：平成１６年１１月１８日・１９日（いずれも午後開催）
場所：鴨川市立東条小学校

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
☑ １３～１８学級　□ １９～２４学級
□ ２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☑ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　☑ 国語　□社会　☑ 算数　□理科
□ 生活　□音楽　□ 図画工作　□家庭
□ 体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無